

臨床実習後OSCEにおける試験課題に関する研究

研究分担者 岡崎史子・新潟大学・教授  
研究分担者 大久保由美子・帝京大学・教授

研究要旨

POST-CC OSCE（臨床実習後OSCE）における課題のあり方検討のため、（1）研修開始時に身につけておくべき臨床能力のマイルストーン（2）研修開始時に身につけておくべき臨床能力のうち臨床実習後OSCEで評価する能力（3）新たな課題の作成と評価法（4）ブループリントの作成（5）医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂への対応を委員会にて議論した。その結果、評価すべき項目として8項目が抽出されブループリントおよび新作課題の案が作成された。今後さらに検討を要する。

A. 研究目的

臨床実習後 OSCE は 2022 年度より、「診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度に関する学修・評価項目（第 1.0 版）」に基づき課題が作成されている<sup>1)</sup>。また、「臨床実習終了までに修得すること（CATO）」に 14 項目が掲げられていたが、2022 年度の本研究の中で、12 項目に修正された<sup>2)</sup>。そのうち、機構課題で測定するのは以下の 4 項目のみとしている。

1. 適切なコミュニケーションによって医療面接を行い、必要な情報を得る。
2. 適切に身体診察を行い、必要な情報を得る
3. 得られた情報から適切な臨床推論を行う
4. 状況に即した適切な症例提示を行う

臨床実習後 OSCE を公平公正かつ客観的で信頼性の高い試験とすることを目的に、以下の項目について現状の分析と問題点の抽出、問題解決に向けた検討を行った。

- （1）研修開始時に身につけておくべき臨床能力のマイルストーンの作成
- （2）研修開始時に身につけておくべき臨床能力のうち臨床実習後 OSCE で評価する能力
- （3）新たな課題の作成と評価法
- （4）ブループリントの作成
- （5）医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂への対応

B. 研究方法

機構内改組により課題のあり方検討チームは OSCE のあり方ワーキンググループに改編

された。メンバーが月 1 回会議を開催し、上記（1）から（5）について検討を行った。

（1）についてはワーキンググループメンバーで議論した上で、CATO 内の全委員にパブリックコメントを求めてブラッシュアップを行い作成した。（2）は「臨床実習終了までに修得すること（CATO）」から「臨床実習後 OSCE で評価されること」を、CATO において臨床実習前、後の業務に関わっている医師をエキスパートパネルとして Delphi 法にて評価項目を検討した。

（3）（4）は新たな課題のブループリントとそれにそった課題作成、評価のあり方について検討した。

（5）医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の動向を調べ、臨床実習後 OSCE の改訂に必要な事項を検討した。

（倫理面への配慮）

本研究では受験生・評価者・模擬患者の情報を扱わず、介入も行わない。

C. 研究結果

（1）検討の結果、マイルストーンは臨床実習前（臨床実習開始時）と臨床実習後（臨床研修開始時）のマイルストーンを分けて作成することが適切であるという結論に至った。各項目についてその内容を十分に吟味し、マイルストーン<sup>3)</sup>を作成した。

（2）Delphi 法で検討し、現在実施されている 4 項目に加え、以下の 4 項目も評価項目に含めた。

7. 診療録を正確にわかりやすく記載する。
8. 医療安全上の問題を認識し、適切な行

動をとる。

11. 基本的臨床手技を安全かつ適切に実施する。

12. 得られた情報から緊急性を評価し、適切な初期対応をする。

(3) (4) 「臨床実習終了までに修得すること (CATO)」の 12 項目において、(1) で検討したマイルストーンの内容にそって、どのような課題が作成可能なのか、ブループリントを作成した。その結果新作課題およびブループリント案 (表 1) が作成された。評価については概略評価のみで評価する案が示された。また新作課題の概要としては、以下の要素が抽出された。

- ・実現可能性から、7 分課題または 16 分課題が望ましい
- ・医療面接においては生物心理社会モデルの聴取に焦点を当てた課題が必要である。
- ・手技や救急については臨床実習前のパフォーマンスだけでなく、より真正性の高い課題が必要である。

(5) 令和 4 年度の医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂にあわせて、学評の改訂の必要性について議論された。平成 28 年度版の医学教育モデル・コア・カリキュラムで示された 37 症候の一部が変更となっており、症候に合わせて現行の 16 分課題が作成されていることから、新しく加えられた症候についての課題は今後新規に作成し、削除された症候についての課題は取り扱いについて随時検討する必要があるという結論に至った。

## D. 考察

臨床実習後 OSCE を国家試験化するにあたっての妥当性・信頼性・公平性は、社会の求める医療と医師の役割および現在の医学教育環境を十分に理解した組織および研究者によりさらに検証を続ける必要がある。

評価解析委員会において、大学、評価者、受験生などからのフィードバックの解析が開始されており、今後新作課題が作成され、試用が開始された際には年間計画の中で検証と課題作成のサイクルを回す方策が必要である。

## E. 結論

臨床実習終了までに修得する、観察可能な行動のうち、臨床実習 OSCE で評価するための能力とそのマイルストーンを作成した。そのマイルストーンに沿って作成すべき新規課題の概要を定めた。令和 4 年度版モデル・コア・カリキュラムとの整合性については、課題の新規作成や取扱いを随時検討する必要がある。

## 《参考資料》

1) 公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) : 診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度に関する学修・評価項目 (第 1.0 版) :

[https://www.cato.or.jp/pdf/hyouka\\_1.pdf](https://www.cato.or.jp/pdf/hyouka_1.pdf)

2) 公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) :

[https://www.cato.or.jp/pdf/osce\\_shutoku\\_01.pdf](https://www.cato.or.jp/pdf/osce_shutoku_01.pdf)

3) 公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) :

[https://www.cato.or.jp/pdf/osce\\_shutoku\\_02.pdf](https://www.cato.or.jp/pdf/osce_shutoku_02.pdf)

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

原著

- ・櫻井結華, 茂木雅臣, 岡崎史子; コロナ時代の医学教育. *JOHNS* 2023; 39 : 85-88
- ・岡崎史子; SDGs を見据えた医学教育. *生存科学* 2023; 33 : 95-98
- ・岡崎史子; 学習理論の変遷と医学教育. *新潟県医師会報* 2023; 878 : 1-6
- ・西城卓也, 岡崎史子, 松山泰. 【学習者評価 update】 Programmatic Assessment 学習のための評価という新たなパラダイム. *医学教育* 2023; 54 : 389-399
- ・山川詩保子, Razvina Olga, 岡崎史子 : 医学教育 2023; 54 : 616-618

その他

- ・沖永寛子, 大久保由美子, 田中篤, 金子一郎, 渡邊清高. 帝京大学医学部における新型コロナウイルス感染症の影響下での医学教育・臨床実習 ~コロナ禍での教育の現状とさらなる教育改良に向けた取り組み~. *医学振興* 91 21-25 2022

### 2. 学会発表

- ・大久保 由美子, 大滝 恭弘, 安達 三美, 酒本 瑞姫, 藤原 優子, 中村 英里, 大谷 浩樹, 増山 里枝子, 白井 千恵, 帝京大学男女共同参画推進委員会. 多職種連携で考えるワーク・ライフバランスと 1 年生が求める相談相手 第 55 回日本医学教育学会大会 2023
- ・菊地 弘敏, 山村 朋子, 阿部 浩一郎, 大久保 由美子, 塚本 和久, 大胡 恵樹. コロナ禍の臨床実習において ICT を活用した実習日誌のファイル共有による振り返りとフィードバックの効果 第 55 回日本医学教育学会大会 2023
- ・江戸 直樹, 澤 智博, 内野 卓也, 宇野 希世子, 宇野 健司, 盛田 幸司, 大久保 由美子, 石川 敏夫, 坂本 哲也, 寺本 民生. 当院 6 年間の全測定データを用いた脂質関連検査値に対する COVID-19 の影響分析. 第 55 回日本動脈硬化学会総会 2023

- ・神保 佳穂, 神保 彰寛, 飯郷 徹, 大久保由美子, 塚本和久.当院における糖尿病薬物療法の変遷について. 第 96 回日本内分泌学会 2023
- ・大久保 由美子, 大滝 恭弘, 安達 三美, 酒本 瑞姫, 藤原 優子, 中村 英里, 大谷 浩樹, 関 玲子, 帝京大学男女共同参画推進委員会. 1年次に多職種連携で学ぶワーク・ライフバランスによるキャリアプランの変化.第 54 回日本医学教育学会 2022
- ・菊地 弘敏, 阿部 浩一郎, 大久保 由美子, 塚本 和久.コロナ禍の臨床実習におけるファイル共有による実習日誌の効果.第 54 回日本医学教育学会 2022
- ・渡邊 清高, 高田 真二, 山田 昌興, 小尾 俊太郎, 河野 肇, 時崎 暢, 三澤 健之, 田中 篤, 大久保 由美子.CC-EPOC(卒前学生医用臨床教育評価システム)導入期における課題抽出とマニュアル策定による臨床実習の活性化.第 54 回日本医学教育学会 2022
- ・竹内 保男, 丸山 桂司, 大久保 由美子, 金子 一郎, 坂本 哲也, 森村 尚登. 時間経過による医学部学生の胸骨圧迫能力保持の検証 第 54 回日本医学教育学会 2022
- ・松田 貴美子, 中村 英里, 竹内 保男, 中村 康宏, 村上 勲, 大久保 由美子, 金子 一郎, 丸山 桂司.帝京大学 4 学科における胸骨圧迫スキルの修得度比較. 第 54 回日本医学教育学会 2022
- ・竹内 保男, 金子 一郎, 丸山 桂司, 大久保 由美子, 森村 尚登, 坂本 哲也.COVID-19 パンデミックの影響下での Q-CPR 客観評価を活用したブレンド型院内 BLS(Basic Life Support)講習会の結果報告.第 41 回日本蘇生学会 2022
- ・金子 一郎, 丸山 桂司, 深谷 留美子, 竹内 保男, 大久保 由美子, 坂本 哲也.医療系大学学生に対する心肺蘇生教育の充実に向けた多部門での継続的取り組み フィードバックデバイスを活用した心肺蘇生授業の学部横断的標準化. 第 41 回日本蘇生学会 2022
- ・Ichiro Kaneko, Yumiko Okubo, Yasuo Takeuchi, Keiji Maruyama, Koichiro Abe, Kumiko Konno. Final Outcomes of the Successful Cooperation on the Development of the University-Standardized Basic Life Support (BLS) Skill Test.. AMEE2022 Lyon

3. 実用新案登録  
なし

3.その他  
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む)

1. 特許取得  
なし

表1 新作課題及びブループリント案

課題タイプ	課題種類	状況設定			患者年齢			症状	病態・疾患	医療面接 (BPSモデル)				身体診察				評価項目												課題例				
		病棟	外来	救急	～20	20～65	65～			病歴	病態・疾患	生物	心理	社会	胸部	腹部	その他	配座		臨床実習終了までに修得すること (CATO)											概略評価			
																		配座	配座SP	1	2	3	4	7	8	11	12							
現行	縦横課題	○	○							●	○	○				●	●	●	●	●	●												●	
新規	縦横課題	○	○							●	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●												●	
新規	縦横課題	○	○							●	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●												●	シナリオの続き
新規	縦横課題	○	○							●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●												●	シナリオの続き
新規	縦横課題	○	○							○	●	●	○	○	○	●	●	●	●	●	●												●	心理社会的なテーマをどのように盛り込むか、模擬患者の負担を増やさず・・・OSCE環境での難しさもある
新規	縦横課題			●						●																						●	縦横課題実施のあとに、その症例のカルテを記載する紹介状の作成、(他科)コンサルテーションの作成	
新規	縦横課題									●	●	●																				●	再診時のビデオ動画をみて診療録記載	
新規	縦横課題	○	○	○						●	○	○				●	●	●	●	●	●											●	プレゼンのかわりにカルテ記載	
新規	縦横課題	○	○	○																												●	シナリオから手技へ繋ぐ	
新規	縦横課題	○	○	○						●	●					●	●	●	●	●	●											●	例：得られた情報から緊急性を判断して初期対応を行う	
新規	縦横課題			●						●						●	●	●	●	●	●											●	SP/マネキンへの救急対応	
新規	縦横課題			○						●			●	●	●	○	●	●	●	●	●											●	例：発熱、意識障害などのケース。医療面接なし、head to toes身体診察のみ。身体診察のみなら教員SPでもよいかもしれない	
新規	縦横課題	○	○							●	●	●				●	○	●															●	"listening to bad news" 例：シナリオ課題：患者・家族にbad news telling
新規	縦横課題	○	○	○						●	●	○						●	●	●	●											●	医療面接・身体診察に続き、患者安全上問題の発生や治療関連のシナリオを追加、カルテ記載・他職種や指導等への相談、申し送りをする	
新規	縦横課題	○	○	○						●	●	○						●	●	●	●											●	転倒後の対応	
新規	縦横課題	○	○	○						●	○	○							●	●	●												●	救急判断・救急対応+手技
新規	縦横課題	○	○	○												●	●	●	●	●	●											●	例：患者さんとコミュニケーションをとって手技を行い、その内容を診療録に記載する	
新規	縦横課題	○	○	○																													●	パニック発作を受けた時点からの連絡や対応をする。 例：医療面接した患者さんの対応という報告を受けた、など
新規	縦横課題	○	○	○																													●	救急場面の処置のあと、少しよりもっさりしたプレゼンを目指して行う
新規	縦横課題	○	○	○							●																						●	例：患者さんに行った手技で医療安全上の問題が生じた場合に、緊急性を判断しその内容を報告し診療録に記載する
新規	縦横課題			○						●	●	●																					●	video/scenario-based
新規	縦横課題	○	○	○																													●	医療安全上の問題が発生したときの動画(転倒・転落事例など)をみて、それをカルテに記載する
新規	縦横課題	○	○	○																													●	手技時の患者確認、チームタグと課題の名前が違う、針刺し事故など、シナリオとは連携していてもよい単独でもよい、模擬患者なし
新規	縦横課題																																●	予防接種後に患者がアナフィラキシーとなって、ボスミンを打つ。難症する
新規	縦横課題																																●	ベニシリンアレルギーの患者にベニシリンが点滴されていた場面へ遭遇、まず点滴を止めて、適切に対応する
新規	縦横課題			○						●																							●	ER simulation(上級医の指示に従い、複数の手技を行う)
新規	縦横課題	○	○		-	-	-			●																							●	基本の臨床手技？ 診療録(2号用紙)記載
新規	縦横課題	○	○		-	-	-			●																							●	標準手技案 基本の臨床手技